修 論 要 旨

東京都・北京市都市間交流史論

邱　　曉燕

本修士論文は、７章からなる。第１章では、都市間交流の背景分析として「国交正常化以降の日中関係史概況」を叙述する。第Ⅱ章では、「1974年・1979年・1981年の東京都・北京市の都市間交流」を、第Ⅲ章では、「1984年・1994年・1999年の東京都・北京市の都市間交流」を考察する。第Ⅳ章～第Ⅵ章では、東京都区内の３区と北京市内の３区とのあいだの地域間交流の経過を孝察する。すなわち、「東京都中野区と北京市西城区との地域間交流」（第Ⅳ章）、「東京都目黒区と北京市崇文区との地域間交流」（第Ⅴ章）、「東京都練馬区と北京市海淀区との地域間交流」（第Ⅵ章）である。

第Ⅰ章　国交正常化以降の日中関係史概況

この章では、東京都と北京市との間の都市間交流の経過と課題を考察するための前提として、1972年の国交正常化以降現在までの日中両国の国家関係について述べた。全体を、国家間交流の第１段階（1972～1978年）、国家間交流の第２段階（1978～98年）、国家間交流の第３段階（1998年～現在）に区分して、国家関係の変動を叙述した。

第Ⅱ章　1974年・1979年・1981年の東京都・北京市の都市間交流

この章では、1974年・1979年・1981年の東京都・北京市の都市間交流について紹介し、都市間交流の形態がどのように変化、発展したかを考察した。都市間交流の形態を、（１）議会・政府間交流、（２）技術交流、（３）福祉･教育交流、（４）スポーツ･青年交流、（５）文化交流、の５つの領域に分けて変化の局面を考察した。考察の結論は次の２点にまとめることができる。第１点。1974年は、東京・北京両市の議会・政府間交流の基礎が築かれた段階であった。なんら都市間交流と呼べるような活動はなかった。第２点。1979年に議会・政府間交流が始まり、1981年にもそれは継続していた。1979年では、福祉・教育交流を除いた技術交流、スポーツ・青年交流、文化交流が始まっていた。1981年には、やっと福祉・教育交流が始まった。1979年、1981年では、都市間交流の領域はきわめて限られていた。

第Ⅲ章　1984年・1994年・1999年の東京都・北京市の都市間交流

この章では、1984年・1994年・1999年の東京都・北京市の都市間交流について紹介し、都市間交流の形態がどのように変化、発展しやかを考察した。考察の結論は次の４点にまとめることができる。第１点。議会・政府間交流、技術交流は、1984年・1994年・1999年でほとんど変化がなかった。技術交流については、経済発展を加速するためにも北京側にそれを持続しなければならない誘因があった。

第２点。福祉･教育交流、スポーツ･青年交流、文化交流は次第に不活発になっていった。とくに福祉・教育交流は軽視されていた。両国の一般市民のあいだの相互理解を深めていくためにも、これらの交流の意義はあった。しかし、現実には不活発になっていた。第３点。外国人（中国人）居住者への東京都のサービス事業は、1984年時点ではほとんどなかったが、1999年では多様なサービス事業が行われていた。

1980年代後半における外国人居住者の増加は全国的な趨勢であったが、東京都もこれにたいする行政的な措置を採っていた。第４点。スポーツ･青年交流は、1984年時点では東京･北京２市間の交流は多角的都市間交流のなかに包摂されるようになった。

第Ⅳ章　東京都中野区と北京市西城区との地域間交流

この章では、東京都中野区と北京市西城区との地域間交流について紹介し、地域間交流の形態がどのように変化、発展したかを考察した。両区間の地域間交流の特徴は次の３点にまとめることができる。第１点。最も盛んであったのが、スポーツ・青年交流である。その内容は、「駅伝マラソン大会」への参加（1986年以降）、「少年軟式野球大会」（1990年以降）、「卓救カーニバル」交流（1992年以降、中野区と西城区が共同チームを結成）、「少年サッカー大会」（1994年以降）、「青少年交歓キャラバン」（1988年以降）、「青少年の翼」（1991年以降）、「中国ふれあい青年の旅」（1993年以降）などである。第２点。次いで盛んに実施されたものは訪中団活動であった。その多くは自主的な参加であった。中野区日中友好協会が積極的な役割をはたした。1995年までに計35団体、延べ592人が参加した。第３点。その他にも、多様な友好交流が展開された。たとえば、「在日中国美術家展覧会」交流（中国留学生の芸術作品を発表）、「教員交流」（1986年以降）、「高齢者交流」（老人ゲートボール大会など）、「障害者交流」（1995年以降）、「経済団体交流」（1992年以降、商工業者間の交流）、「菓子製造技術研究生受け入れ」（技術交流の一種）、「中野区職員西城区派遣研修」（1987年以降、中野区海外派遣制度に基づき実施）、「西城区職員の研修受け入れ」（1988年以降）「女性交流」（1994年９月のママさんバレー交流、95年国際婦人年の中野区女性代表団の西城区女性との交流などである。

第Ⅴ章　東京都目黒区と北京市崇文区との地域間交流

この章では、東京都目区と北京市崇文区との地域間交流について紹介し、地域間交流の形態がどのように変化、発展したかを考察した。両区間の地域間交流の特徴をまとめると、次の通りである。交流は1991年10月26日の「友好協力関係促進のための協定書」の調印以降本格化し、交流は広範な分野に広がった。両区の議会は行政交流、研修生受け入れと派遣、保育、児童厚生職員研修生の派遣と受け入れ、教育交流（小中高生の交流事業、児童、生徒書画作品展、両区の中高生による大氣測定、教育関係者の訪問、視察交流に力を注ぎ、議会交流（目黒区議会と崇文区人民代表大会相互交流）、民間交流（文化交流団の派遣、招聘、書道、交流団、太極拳交流団、中国語研修団、青少年交流、日中青少年交歓キャラバン）、職員派遣交流などを進めた。この交流の中核組織として、目黒区日中友好協会が存在した。

第Ⅵ章　東京都練馬区と北京市海淀区との地域間交流

この章では、東京都練馬区と北京市海淀区との地域間交流について紹介し、地域間交流の形態がどのように変化、発展したかを考察した。両区間の地域間交流の特徴をまとめると、次の通りである。交流は1992年以来順調に進められ、現在に至っている。交流の開始は比較的遅かったが、その後の展開は順調である。その要因は中国人居住者が他の区と比べて多いということにあるのではないか、と思われる。

最後に、筆者の結論をまとめると、次の３点になる。第１点。都市間交流とは、自治体同士によって推進される国内的なたは国際的な交流である。都市間交流のよいところは、多くの地域住民が参加できる機会があることである。今日においては、自治体による都市間交流は重要な政策の一つになっている。都市間交流は地域の振興・活性化と国際親善の推進に大きな役割をはたしている。

第２点。東京都と北京市との都市間交流はすでに30年近い歴史をもっている.。政府間行政交流をはじめ文化交流・医療技術交流・経済交流・教育交流・消防技術交流・科学者交流・農業技術交流・青少年交流・研究生交流など様々な分野で成果があった。これによって、両市の市民間の相互理解が深まった。とりわけ、交流を通じて多くの人材が育成された。各種の事業に多くの人々が参加した。交流活動に多くの専門家･研修生･留学生、一般の青少年たちが参加したのである。都市間交流は地方政府によるつくられた交流・提携の枠組みのもとで、民間交流を発展させてきた。いわば、民衆交流のための「懸け橋」が都市間交流によって実現したのである。国家間交流と異なる政治的、社会的、経済的な意味を都市間交流ははたしてきたのである。

第３点。国際的な都市間交流において重要なことは、都市間の対等なレベルの関係を保持することである。しかし、共同で円滑な事業を進めていくのは、大変に難しい。事業を円滑に進めていくためには、交流相手側の制度や習慣やニーズを正確に把握しなければならないからである。また、相手に敬意を払いながら事業を進めていくという自覚も、相互にもたなければならない。この点では、日本人も中国人もよりいっそうの努力を続けていかなければならない。